<table>
<tr><td colspan="3">人口減少社会における地域づくり対策特別委員会 記 録</td></tr>
<tr><td>１ 会議の日時</td><td colspan="2">令和６年７月３日
開　会　　午前　９ 時　５７分
閉　会　　午前 １１ 時　４２分</td></tr>
<tr><td>２ 会議の場所</td><td colspan="2">第１委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３ 出　席　者</td><td>委員</td><td>委員長　玉田　和浩　副委員長　松岡　正人
村下　貴夫　佐藤　武彦　高殿　尚
長屋　光征　広瀬　修　所　竜也
小川　祐輝　木村　千秋　判治　康信</td></tr>
<tr><td>執行部</td><td>別紙配席図のとおり</td></tr>
<tr><td>４ 事務局職員</td><td colspan="2">主査　古藤　綾乃　主任　田中　美香</td></tr>
</table>

５ 会議に付した案件	
件　　名	審 査 の 結 果
１　子どもを産み育てやすい地域づくりについて ・ライフステージに応じた支援について 　　～ 企業への働きかけ＆ライフデザインセミナー ～ ・若手や女性が働きやすい環境づくりについて ２　その他	

６ 議 事 録（要点筆記）

○玉田和浩委員長

ただいまから、人口減少社会における地域づくり対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、人口減少社会における地域づくり対策に関し、今年度の調査項目の一つとしている「子どもを産み育てやすい地域づくりについて」を議題とし、協議いただくため開催したものである。

それでは、議題に入る。

まず初めに、「ライフステージに応じた支援について～企業への働きかけ＆ライフデザインセミナー～」について、参考人として、フリーアナウンサー平松亜希子様にお越しいただいた。

平松様におかれては、大変御多忙のところお越しいただき、お礼を申し上げる。

是非、活発な意見交換ができればと思うので、よろしくお願いする。

質疑については、報告終了後にお願いする。それでは、平松様、御報告をお願いする。

（参考人説明：フリーアナウンサー　平松　亜希子　氏）

○玉田和浩委員長

ただいまの報告に対して、質問等はあるか。

○長屋光征委員

企業訪問において企業の方や結婚を希望する若い世代と接する中で、若い世代から何人くらい子供が欲しいというような話は出ているか。

○平松参考人

企業訪問ではそういう話はないが、ライフデザインセミナーで学校に行くと、１人目の子供を持つだけでライフデザインを書き終わる生徒はあまりおらず、第２子、第３子を書く生徒は多い。

○長屋光征委員

県外からの移住者として、岐阜県特有の地域性や課題などを感じたことはあるか。

○平松参考人

岐阜県民は非常に真面目だという印象を持っている。何をするにおいても、順序立てて計画を持って進めていくことが当たり前となっており、とりあえず一度やってみようというような感じはあまりない。

○長屋光征委員

むしろそれがマイナスに働いているのではないかとも感じるが、特に子育てや結婚といった場合に改善した方がよい点やもっと思い切って進めた方がよいと思うことはあるか。

○平松参考人

何事においても方向性が決まれば一気に動き出していく気質には心強さも感じる。一方で、実体験として、重要な仕事と子供の幼稚園の行事が重なった際、幼稚園に相談したところ、柔軟に対応いただいたことがあり、非常にありがたかった。個々の事情や悩みを相談できるような、社会として子育てを支え、守っていけるような環境が整うとよい。

○広瀬修委員

令和５年度の少子化に関する県民意識調査の中で、「いずれ結婚したいが、理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない」という方が48.5％いるが、いかにこの層を結婚につなげていくかが重要ではないか。

○平松参考人

そのとおりである。そのために県の「ぎふマリッジサポートセンター」において、結婚を望む方々に出会いの場を提供できるように日々活動しているところ。一方で、センターの存在自体を知らない若者もまだまだ多いため、広く周知していく必要がある。

○広瀬修委員

「子育てをして良いと思うことは特にない」という回答が1.5%あるということだが、実際の子育てにおいては、誰しもが大変だと感じながら子育てをしており、数値だけでは判断しづらいのではないか。

○平松参考人

実際の子育ては間違いなく大変であるが、それ以上に幸せを感じることも多い。そのことをしっかりと周知していきたい。

○堀子ども・女性局長

平松氏の説明のように、結婚、子育てに対する意識変革が重要である。ライフデザインセミナーをより充実させていくとともに、現在策定を進めている「県こども計画」においても対策を強化していきたい。

○小川祐輝委員

ライフデザインセミナーはどのように実施しているのか。

○平松参考人

子ども・女性局から県内の中学校・高校・大学等へセミナーの案内を行っており、希望する学校に対して実施している。しかし、学校現場では、このセミナーをそもそも知らないという話もあり、自身の個人的な教員とのつながりの中で実施に至ったものもある。学校への周知をもっと図っていく必要があると考えている。

○小川祐輝委員

講師は平松氏のみか。また、昨年は何件実施したのか。

○平松参考人

かつては、特に高校において、企業の方々がセミナーを行われたこともあるが、昨年度小中学校で実施したセミナーの講師は私のみであり、５回開催して受講者は543名。なお、令和４年度は５回開催し、969名が受講したが、このうちの１回は企業の方が講師をされた。

○松岡正人副委員長

中学校、高校でのライフデザインの取組は非常に大切であり、より多くの子供たちに取り組んでもらいたい。なお、セミナーで子供たちが作成する「人生グラフ」において、男女の交際をライフイベントとして記入しているようなことはあるか。

○平松参考人

最近交際相手ができたということで、書き入れていた生徒がいたことはあった。そもそもグラフの作成にあたっては、将来的に結婚や出産を書く場合、そこから逆算して記入するように説明するが、出会いや交際を書くように伝えてはいない。

○松岡正人副委員長

少子化に関する県民意識調査では、「適当な相手がいない」という回答が30代で増加するということであり、20代のうちから交際相手や結婚相手を探すことが重要。出会いや交際の重要性についてもセミナーで触れられるとよいのではないか。

また、教育委員会とも連携して、こうしたセミナーをぜひ学校の教員が行えるようにすべきではないか。平松氏のようなライフデザインセミナーの講師をインストラクターとして教員向けの研修を行い、授業を行えるようにして、学校現場で広めていく取組も必要である。

○平松参考人

御指摘のとおりである。先生の人生の話は子供たちも普段なかなか聞くことがなく、その分新鮮な印象を与える。また、身近な存在であることから、コミュニケーションも取りやすいため、ぜひ講師となっていただきたい。

○堀子ども・女性局長

ライフデザイン冊子を中高校生向けに配布し、教員にも活用いただいている。学校へのアンケートでも内容を高く評価いただいており、今後さらなる活用に向け教育委員会とも協議し、対応してまいりたい。

○棚橋高校教育課長

高校の授業では、例えば家庭科に家庭基礎という科目がある。その授業の導入で、自分の人生を考えるライフイベントを実際に作り、キャリアプランを考えることも行っている。

○小川祐輝委員

ライフプランを作るにあたって、妊よう性（妊娠するための力）などについてもしっかりと教えていくべきである。

○長屋光征委員

個人としても、かねてからライフプラン教育の重要性を訴え、取組を求めてきた。これを受け、子ども・女性局でも、中高校生向けのライフデザイン冊子を作成し、取組を進めている。冊子は非常によい出来であり、３月には県議１期、２期の議員にも配付してもらったが、３期以上の議員にも配付し、議員全員に認識を持ってほしい。

ライフデザインを子供たちに考えてもらう中で、例えば不妊の要因は男性側にも女性側にもあることや、妊よう性の観点から何歳ごろまでに子供を持つことがよいか、あるいは子供を持たないという選択肢も尊重されるべきことなどを教えていくことは、非常に重要な取組である。教育委員会にあっては、子供たちが自分の人生を自分で設計していけるように、ライフデザインの取組を加速度的に進めてほしい。

○山田義務教育課長

子ども・女性局から配布されるライフデザインに関する教材のＰＲに努めるとともに、総合学習の一環として行っているキャリア教育の一層の充実を進めていく。

○長屋光征委員

学校の先生を講師としたり、民間の協力を求めるなどしたりして、全ての児童生徒がライフデザインセミナーを体験できるよう要望する。

○山田義務教育課長

承知した。また、ライフデザインセミナーの認知度を高めるため、各学校への周知も徹底する。

○佐藤武彦委員

子育てには企業の協力が必須とのことだが、企業はどのようなことに取り組んでいるのか。また、必要だと思う取組はあるか。

○平松参考人

企業によって、非常に温度差を感じる。他の企業の事例紹介などにより、取組の促進などをしている。各企業に任せざるを得ないが、少しずつでも活動を進めていきたい。

○佐藤武彦委員

キャリアデザインの関係で、地元の美濃市にある県立武義高等学校では、企業人を招いた生徒向けのセミナーなどを数多く行っており、非常に良い取組だと思う。ライフデザインのセミナーも何回実施したかではなく、長屋委員の発言にもあったように、全ての子供たちに行き渡るように取り組んでほしい。

○玉田和浩委員長

質問が尽きないようであるが、次の予定があるため、これをもって「ライフステージに応じた支援について～企業への働きかけ＆ライフデザインセミナー～」を終了する。

平松様、大変貴重な報告をいただき、あらためてお礼を申し上げる。

ここで、次の準備のためしばらく休憩する。

午前10時57分　休憩

午前11時01分　再開

○玉田和浩委員長

それでは、休憩前に引き続き、委員会を再開する。

次に、「若手や女性が働きやすい環境づくりについて」について、参考人として、株式会社マツバラ代表取締役社長松原史尚様にお越しいただいた。

松原様におかれては、大変御多忙中のところ、お越しいただきお礼を申し上げる。

是非、活発な意見交換ができればと思うので、よろしくお願いする。

質疑については、報告終了後にお願いする。それでは、松原様、御報告をお願いする。

（参考人説明：株式会社マツバラ　代表取締役社長　松原　史尚　氏）

○玉田和浩委員長

ただいまの報告に対して、質問等はあるか。

○堀子ども・女性局長

県では、ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む企業を「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」として認定し、広げていく取組を行っている。大変参考になる話を伺ったので、ぜひ今後、連携させていただきたい。

○村下貴夫委員

企業の福利厚生サービスの充実は、普通なら組合が経営陣と折衝しながら進めていくものだが、最初から最後まで社長が一手に引き受けて進めているのか。

○松原参考人

人を大切にすることや、「自他一如」という自分も他人も大切にすることをポリシーとしている。中小企業でも最低限の福利厚生サービスがなければ、就職したがらないと思った。今の職場では、お互いが了解していれば何をしてもよい雰囲気ができている。社長が「あれがダメ」「これがダメ」と言うより、職場に理解があればよしとしているのが当社のやり方である。

○玉田和浩委員長

ご質問も尽きたようなので、これをもって「若手や女性が働きやすい環境づくりについて」を終了する。

松原様、大変貴重な報告をいただき、あらためてお礼を申し上げる。

○玉田和浩委員長

以上で、本日の議題は終了したが、この際、他に何か意見等はあるか。

また、執行部の方、何かあるか。

（発言等なし）

○玉田和浩委員長

意見等がないようなので、これをもって、委員会を閉会する。

人口減少社会における地域づくり対策特別委員会配席図

令和6年7月3日
第1委員会室

出入口

傍聴席・記者席

傍聴席・記者席

大槻 子育て支援課 こども政策調整監

大野 男女共同参画・女性の活躍推進課 男女共同参画推進監

渡辺 産業人材課長

森島 労働雇用課長

堀場 子育て支援課長

笠井 男女・共同参画女性の活躍推進課長

山下 子ども・女性局副局長

堀 子ども・女性局長

谷口 地域振興課長

河村 私学振興・青少年課長

山田 義務教育課長

棚橋 高校教育課長

市橋 清流の国推進部長

片桐 清流の国推進部次長兼岐阜地域総括監

加藤 清流の国づくり政策課長兼地方創生室長

野中 教育総務課長

木村 委員

所 委員

長屋 委員

佐藤 委員

松岡 副委員長

議会事務局

判治 委員

小川 委員

広瀬 委員

高殿 委員

村下 委員

玉田 委員長

参考人

ディスプレイ

出入口